

図画工作科 小校第6学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4 5	切った粘土の切り口から ・粘土のかたまりや板を切り取り、その形を生かして立体を作る。	A (2) ウ	2		小学校第5学年 「粘土に気持ちをこめて」	○5 学年では、心象を大切に形を表したが、ここでは、粘土を操作する中で、出てきた形から発想することを大切にしている。このように 5, 6 年での題材内容の違いを経験させることで中学校美術の彫刻や中小立体表現につながっていく。	中学校第1 学年 「心の仮面」	
5	感じたままに花 ・感じたことを大切にして、花を描くことを楽しむ	A (2) ア	5		小学校第4学年 「絵の具で遊んで自分いろがみ」	○花をモチーフとして自分が感じたことを表す題材である。再現的でも抽象的でもデザイン的でもよいが、高学年としての感性を生かした自由な色遣い、筆遣いができるように指導したい。この自分で見つけた形や色、筆使い、表し方が中学校美術へとつながっていく。	中学校第1 学年 「自然物の構成」	
6	強くてやさしい組木パズル ・木材を組み立てて、「組木パズル」を作る。	A (2) ウ	7		小学校第5学年 「ビー玉、大ぼうけん」	○5 年生においても電動糸のこぎりを使って曲線切りをした板材を生かす活動を行っている。「かきつき」「だぼ」を生かす体験をさせ、中学校技術へとつなげていくようにする。		
	墨のうた ・墨や筆、和紙の特徴を知って、かくことをたのしむ。	A (2) ア	4		小学校第3学年 「絵の具と水のハーモニー」	○これまで絵の具と筆で表現してきた経験をもとに、初めて描画材料としての墨に出会わせる。	中学校第1 学年 「いろいろなスケッチ」	■自由に使える絵に具の量とローラーの数を保障し、できるだけびのびと活動できる空間にする。また、教科書の作例により使い方の工夫を考えさせてから作品作りへ取り組む。
7	瞬間コレクション ・写した写真を通して、さまざまなものの見方を発見し、発表し合う。	B (1) イ	2		小学校第5学年 「見つけたことを話してみよう」	○ツールとしてのデジタルカメラの使い方、及びその画像の生かし方について学ぶと共に、一瞬を切り取る楽しさを味わわせる。また、活動の後半では、「切り取る瞬間」から子どもたちが意図的に「つくり出す瞬間」へと豊かな活動にすることが大切である。	中学校第1 学年 「自然の形や色」	
8	窓のむこうには ・「窓」をきっかけに、想像したことを工夫して描く。	A (2) ア	6		小学校第5学年 「そのぼ」くん登場	○「窓」というキーワードからイメージを広げ、想像した世界を絵に表す。自分が想像した世界が効果的に現れるように、描画材料の扱いや表現方法も工夫させる。		■「窓」からながめてみたら、そこにはどんな世界が広がっているのだろう、といった提案から自由に発想を広げ自分の思い描いた世界を好きな表現方法を選んで絵に表す。
9	布と枝のコンサート ・布や枝の特徴を生かして、飾るものをつくる。	A (2) イ	4		小学校第5学年 「線を集めて」	○本題材では、図工で使う材料として布や枝にどんな特徴があるのか考えさせるとともに、「面」と「線」の要素をおさえる。また、材料に応じた接着・接合の方法も工夫させる。		

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
9	おどる光、遊ぶかげ ・光や影の美しさを見つけて、工夫して思いついた活動をする。	A (1) イ	2		小学校第5学年 「流れる風をつかまえて」	○見つけた光や影に対して、材料を使ってどのようにそのよさを造形的に展開していくかが重要となる。光そのものを変化させる物や面白い影をつくり出すものなど、様々な材料を撰び、活動することを大切にする。		
10	いろいろな見方で ・「自分マーク」をもとに見方を変えたり、考え方を広げたりしてかく。	A (2) ア	2		小学校第5学年 「重なると、だれが前、どっちが後ろ」	○本題材の内容は、キュビズムの考え方を取り入れたものである。多視点からとらえたものを同一画面上にかく可能性とその楽しさやおもしろさを味わわせる。	中学校第1学年 「自然物の構成」	
11	はさみと紙のハーモニー ・形と色を組み合わせて、貼り絵に表す。	A (2) ア	4		小学校第4学年 「ようこそ、キラキラの世界へ」	○単純な貼り絵ではなく、偶然生まれた形から造形的なものを見方や考え方を養うことをめあてにした題材である。導入時に良い作品の鑑賞をさせ、自分の表現を見つけるきっかけにすることもよい。余白の美しさや残された形を見つけるようにすることも大切である。		■身の回りにある紙をはさみで切ってコラージュする活動である。ならべたり組み合わせたりしながら自由に発想を広げ、その形や色を生かして平面構成を工夫することを楽しみながら表現する。
12	白い物語 ・集めた材料の場所の特徴を考えながら、思いついた活動を工夫する。	A (1) イ	2		小学校第5学年 「同じものたくさん」	○身の回りにある白い物を集めてみると、それぞれの役割から離れたおもしろさに気付く。微妙に違う色味や形など、比べてみて分かる材料の特徴を感じさせる。また、グループで材料を持ち寄り、そこでも材料の違いや友達の感じ方に触れることを大切にする。		■生活の中から「白い色」に注目して材料を集めることから始める。集まった白い材料の違いのよさ、または「白い色」に感じる特徴等を話し合いながら、楽しいことができそうな場所を選んで活動する。
1	白の世界 ・液体粘土の特徴を生かして、思いついた白い世界を工夫してつくる。	A (2) ウ	4		小学校第5学年 「そのときを形に」	○リキッド粘土を材料として、立体作品に取り組む。本題材では、全体を白くすることで質感を同化し、視点を形だけに集中させながら、自分の想像を広げて「白の世界」を表現させる。		
2 3	わたしはデザイナー 12さいの力で ・板や角材を基に、使って楽しい入れ物をつくる。	A (2) イ	6		小学校第5学年 「ビー玉、大ぼうけん」	○6年生として、これまでの学習経験や生活体験を生かして、自分のつくりたいものを形にしていくように取り組ませる。楽しみながら完成までつくりあげるには、「自分のつくりたいもの」へのイメージを強くもたせる導入を大切にする。		■だれがいつ使うのか、どんな材料や方法でつくるのかについて構想を練ったり、楽しい仕組みを考えたりするなど、つくりたい思いを十分にふくらませて、用途があるものを工夫してつくる。
	合計		50					